

「第2回 金杉台中学校に関する地域説明会」会議録

- 1 開催日時 平成31年3月23日（土）10時00分～12時30分
- 2 開催場所 金杉台中学校 校舎3階視聴覚室
- 3 参加人数 33人

【司会】

皆様、おはようございます。本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。まず、資料の確認をいたします。5種類ございます。一つは、「第2回金杉台中学校に関する地域説明会」、二つ目が「施設の利活用を検討するにあたり知っておいていただきたいこと」、三つ目が「金杉台中学校に関する地域説明会（H31.1.19）でいただいた意見に対する教育委員会の考え等」、四つ目、「フナゲン☆コレ!」、五つ目が「ご意見等記入用紙」です。不足はございませんでしょうか。

続きまして、皆様にお願いがございます。会の進行上、携帯電話、スマートフォン等をお持ちの方は、マナーモードにさせていただくか、電源をお切りいただくようご協力をお願いいたします。また、本日の説明会の終了時刻は、11時30分を予定しております。学校をお借りしていますので、限られた時間となりますが、ご理解いただきますようお願いいたします。

なお、本日の説明会にあたり、金杉台中学校の校長先生をはじめ先生方にご協力をいただきましたこと、感謝申し上げます。

それでは、只今より「第2回金杉台中学校に関する地域説明会」を始めます。はじめに、船橋市教育委員会管理部長よりご挨拶申し上げます。

【管理部長】

皆様おはようございます。本日はお忙しい中、足元の悪い中、第2回地域説明会にお集まりいただき、ありがとうございます。また、本日の開催にあたり町会・自治会の皆様にご協力をいただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

今年の1月に、金杉台とその周辺地域の小・中学校の保護者の皆様、また地域にお住まいの皆様を対象とした1回目の地域説明会を開催し、金杉台中学校の生徒数の現状や今後の見込み、これまでの経緯や教育委員会の考え方をご説明するとともに、保護者の皆様のご意見・ご質問をお伺いしてきました。本日は、前回の説明会でいただいた質問、意見に関連した幾つかの項目について、前回と一部重複する部分もございますが、少し掘り下げてご説明させていただきます。

きます。また、前回、跡地についてのご質問もございましたので、市長部局から財産管理課の職員も参加しております。

本日も、時間の許す限り、皆様方から様々なご意見やご心配ごとなどもお聞かせいただく予定です。現時点でお答えできることについては最大限お話しさせていただくつもりでおりますので、どうぞ忌憚のないご意見、小さなことでも構いませんから、お聞かせいただければと思います。今後も、子供たちの教育環境として何が望ましいのかを考えていきたいと考えております。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

【司会】

ここで、出席職員の紹介をいたします。所属長は所属の所管事務の紹介も合わせてお願ひします。

(出席者自己紹介)

【司会】

それでは、早速、次第に従い進めさせていただきます。本日の説明会は、議事録を作成いたします関係上、質疑応答等を録音させていただきます。ご承知ください。皆様方には、録音・録画・写真撮影は御控えくださいますようお願いいたします。

それでは、教育委員会と財産管理課から、続けてご説明申し上げます。

【教育総務課】

「第2回金杉台中学校に関する地域説明会」により進めてまいります。

それでは、1ページをご覧ください。教育委員会と財産管理課から説明をした後に質疑応答・意見交換の時間を約50分程度設けていきます。

続いて、2ページです。説明会開催の主旨については、資料のとおりです。

続いて3ページから5ページまでは、前回の地域説明会にてご説明しました内容について簡単にまとめたものです。

では、まず3ページです。金杉台中学校の通学区域は地図のとおりです。指定学区の標記からの2本の矢印が指している、紫色の線で囲まれた白抜きの場所2か所と紫色の線にピンク色の場所で、ピンクの場所については、御滝中学校も選択できます。次に、赤い線で囲まれたところが御滝中学校へ通学できる区域です。このうち、左側にある水色の場所は、金杉台中学校を選択することができます。金杉台中学校の通学区域は、御滝中学校の通学区域の中にあるという特徴があります。続いて、右側は、学級数、生徒数の推計です。昭和62年

度をピークにその後、生徒数は徐々に減少し、平成21年度には、生徒数93人、3学級と初めて100人を切り、全学年1学級になり、平成30年度5月1日現在の生徒数は59人です。今後、生徒数が更に減少し、平成42年度には28人という推計となっています。

続きまして、4ページです。文部科学省は、「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」をまとめ、市町村に対し主体的な検討を促しています。教育委員会では、国の考え方を参考にしつつ、「船橋市立小・中学校の学校規模・学校配置に関する基本方針」を策定しています。市の基本方針では、学校規模の標準を、小・中学校ともに12学級から24学級としています。また、学校規模に応じた適正化に向けた方針を定め、現在1学年1学級の金杉台中学校は、「単学級の学年が継続的に発生することが予想される場合」に該当するため、通学区域の変更・弾力化、統合等も視野に入れ、望ましい対応策について検討を始めました。

続いて、5ページです。これまでの間、金杉台中学校、金杉台小学校の関係者が一堂に会して意見交換をするなどにより課題の確認をしてきました。その結果、出された意見は、「小中一貫教育」、「通学区域の変更」、「存続」、「統合」という四つに集約されました。これらの検討内容について、昨年11月に、まず、金杉台中学校・金杉台小学校の保護者の方を対象に、また、今年1月には、両校の保護者の皆様に加え、周辺地域の小・中学校の保護者の方、地域にお住まいの方へと対象を広げ説明会を開催してきました。先ほどもふれた、「小中一貫教育」、「通学区域の変更」、「存続」については、それぞれに課題があることがわかったことから、教育委員会としては、ほかの周辺校に比べ地理的課題の少ない、「御滝中学校との統合が望ましい」と考えている旨ご説明してきました。

続いて、6ページです。ここからは、これまでいただいたご意見について、繰り返しの部分もありますが、教育委員会の考え方等を説明させていただきます。

まず、学校規模についてです。この点については、「少人数・小規模校は良い」、「大規模校は適正化しないのか」など記載の意見がありました。まず、大規模校の適正化についてですが、市の基本方針では、「過大規模となることが継続的に見込まれる場合は、分離新設、通学区域の変更・弾力化等も視野に入れ、望ましい対応策の検討を始めます。」としています。宅地開発が進行している地域で子供が増えています。そのような地域では学校用地となる広大な土地の取得が困難な状況にあり、将来的な児童生徒数の減少を考慮した慎重な検討が必要です。なお、近年では、西部地区での通学区域の変更や現在進行中の新設小学校の校舎建築などの事例があります。

続いて、7ページです。小規模校の利点として、「きめ細やかな指導が行いやすい」、「発表やリーダーを務める機会が多い」等が挙げられます。一方、標準

規模の中学校では、「クラス替えなどにより、多くの仲間と出会える」、「より多くの部活動から選択できる」、「複数の教科担任による組織的な指導がしやすい」等の効果が期待されます。このように、一定の学校規模を確保することが重要と考え、学校教育の目的や目標をよりよく実現するために、学校規模の適正化を検討しています。

続いて、8ページです。前回の説明会にて、コストに関する質問をいただきました。まず、「統合により、国から施設整備に係る補助金が出るか」という点については、統合に伴う施設改修をする場合に経費の一部が補助される国の制度がありますが、統合先として望ましいと考えている御滝中学校について、現時点では統合に伴う施設改修は予定していません。また、「統合はコスト削減のためか」などの質問については、統合が望ましいとしているのは、教育環境の充実が目的ですが、決算額をもとに、コストを試算してみました。次ページ、9ページをご覧ください。

金杉台中学校に関する平成29年度の市実質負担額は概算5,300万円でした。これは、支出額から収入額を差し引いた額、例えば、学校で購入する給食材料費を例にすると、各家庭から給食費として納めていただいた実費分を差し引いた額を、市が支出した経費として試算したものです。主な内訳は、市で負担する人件費、光熱水費、給食調理業務委託費、その他の業務委託費、ICT関係費、施設修繕費、消耗品費などです。なお、学校別生徒一人当たりの市実質負担額を比較すると、金杉台中学校は生徒一人当たり、約73万円に対し、中学校生徒一人当たりの平均は、約23万円です。次に、統合によって削減可能な経費は、概算4,700万と試算しました。先ほどの概算5,300万円との差は、例えば、生徒数に応じてかかる経費など、統合先に負担が移る費用といった、要素を考慮したためです。試算した額の中には、複数校を対象とした契約や事業の性質から、学校数で按分するなどした値も含まれていますので、あくまでも概算ということでご理解いただきたいと思えます。繰り返しになりますが、統合の目的は教育環境の充実ですが、統合となった場合には、一定のコスト削減はされます。

続いて10ページです。前回いただいた意見には、通学区域の見直しに関するものが多くございました。通学区域の見直しにより金杉台中学校の生徒数が増えれば、学校の存続につながることから、複数案を検討してきました。ここからは、前回ご説明したものを中心に再度ご説明いたします。シミュレーションAは、前回の説明会の案①ですが、地図上、水色の御滝中学校と金杉台中学校の選択地域の一部を、金杉台中学校の指定学区とする案です。オレンジ色の場所です。この場合、推計では一時的に6学級になりますが、再び全学年単学級に戻ってしまう結果となりました。

続いて11ページです。シミュレーションBは、只今の変更案を更に拡大してみた場合です。地図ではオレンジ色の東側、地図の右側にある御滝中学校のほうへ拡大して金杉台中学校の通学区域としたとしても、地図上、「×」とあるように、金杉台中学校より御滝中学校のほうが近い地域では、通学距離が遠くなり、負担が増すほか、距離を理由に御滝中学校への通学指定校の変更もでき、効果が限定的なものになってしまうものと思われます。

続いて、12ページです。「選択地域を拡大できないか」という意見に関するシミュレーションCは、前回の説明会の案③です。御滝中学校の通学区域全体を御滝中学校と金杉台中学校を選択区域とする案です。この場合、推計では一時的に4学級となりますが、再び全学年単学級に戻ってしまう結果となりました。なお、仮に急激な学級数の増減があると、安定的な教育環境の提供に支障をきたすおそれがあり、非常に多くの課題があると考えています。

続いて13ページです。シミュレーションDは、シミュレーションCよりも選択地域を拡大するとした案です。地図上の水色の地域は、平成22年度入学者から金杉台中学校の生徒数の増加を図る目的で、拡大した選択地域です。地図に示したパーセントは、これまで9年間の金杉台中学校を選択率の平均です。これを見ますと、金杉台中学校から離れた場所では選択率0%であり、更に周辺まで選択地域を拡大した場合の試算は難しいですが、それほど生徒数は増えないのではないかと考えています。

続いて、14ページです。通学区域に関してまとめますと、平成22年度入学者からの選択地域の拡大による学級数の増加がみられていません。どの案においても、実施する場合、見直しの対象となる地域の理解を得る必要がある中、長期的な効果が見込めず、数年後に再び、検討が必要となる可能性が高く、地域コミュニティに何度も影響を及ぼすことから、長期的な展望をもって、慎重に行うものであると考えています。このように効果が一時的となる通学区域の変更・弾力化によらない対応策を検討する必要があると考えています。

続いて15ページです。ここまで、前回のご質問などに対してご説明してきました。教育委員会としては、一定の学校規模を実現するための対応策として、通学区域の見直し・弾力化も検討しましたが、その効果は限定的であることから、教育環境の充実のためには統合が望ましいと考えています。前回、地域のまちづくりを考える上で中学校という公共施設が必要であるというご意見がありました。一方、説明会后にご提出いただいた「ご意見等記入用紙」には、統合反対の意見の他に、「統合となった場合の跡地活用についての要望」や「統合を進めてほしい」という記述もありました。統合に際しては、例えば、制服はどうなるのか、事前に生徒の交流はできるのか等に不安があると思われるので、そのための準備検討組織を立ち上げ、準備・課題整理をしていくことを想

定しています。

続いて16ページです。今後も地域説明会を開催するなど、意見等をいただきながら対応策を検討していきます。

教育委員会からの説明は以上です。ご清聴ありがとうございました。

【財産管理課長】

続きまして、財産管理課のほうから、「施設の利活用を検討するにあたり知っておいていただきたいこと」についてご説明させていただきます。私ども財産管理課は、船橋市全体の公共施設の全体の計画作成や管理を担当している部署でございます。

本日は、今後、仮に金杉台中学校の統合が決まった場合に、金杉台中の校舎をどうするのか、又はどう活用していくかという話になってくると思うのですが、これらを検討するにあたり、幾つかのお話を皆様にさせていただきたくて、お邪魔いたしました。

2ページになります。まず始めに、船橋市の現状と今後の見通しについてお話させていただきます。いま船橋市がおかれている現状と今後の見通しをまとめると三つの課題があります。

一つめは公共施設の老朽化です。人口急増期の昭和40年～50年代に集中して公共施設を整備しました。その公共施設の老朽化が進み、今後は一斉に建替え時期を迎えることが予想されます。これら公共施設の半分以上は学校となっています。

二つめは人口動態の変化です。市全体の人口は現在も若干増え続けており、今後も緩やかに伸びていきますが、その後は減少に転じていきます。また、船橋市においても全国の市町村と同じように少子高齢化が進んでいきます。そしてこれは船橋市独特の特徴として、人口動態の変化に地域差がかなりあります。具体的には、南部、西部は比較的増加傾向が続いています。中部、東部、北部は減少期が始まっているもしくは今後減少に進んでいくと見込まれており、今後、その地域の差はより一層広がっていくことが予想されています。

三つめは財政状況です。少子化により今後は働く人の人口が減り、税収が減ることに加え、高齢者が増えることによって福祉に関わる社会保障費などの負担が増えることが想定されます。こうした事情が重なりまして、施設の整備などにかかるお金は減っていく見込みです。こういった状況を踏まえつつ、将来にわたって安全で安心な公共施設を提供するために、市では2年前に「船橋市公共施設等総合管理計画」を策定し、公共施設等の管理に関する基本方針を定めました。

3ページになります。「船橋市公共施設等総合管理計画」では、二つの大きな

基本方針を定めました。一つ目は、「公共施設等の最適な配置」です。将来の人口動態等を踏まえて、人口の増減に合わせて施設配置と総量の最適化を推進し、市全体の最適を図る、目指すというものです。二つ目は、「安全安心な公共施設等の整備」です。今後一斉に建替え時期を迎える施設や、老朽化対策が必要な施設に対しては、保全計画等をもとにした整備を行っていくというものです。それぞれの方針について具体的に説明します。

4 ページです。まず①の「公共施設等の最適な配置」では、今後の人口動態をよく考えながら、施設の配置や整備をしていくことを目指しています。例えば、先ほども申し上げましたが、船橋市では将来的に人口が減っていく、とはいえ、まだしばらくは人口が増える予定です。増加する地域にあっては今ある公共施設の有効利用を考えたり、また本当に必要があれば新規整備もします。

一方で、将来人口が減っていったり、当初建てられた施設のニーズが異なっているような施設もあります。このような施設については、現状のまま使い続けるのではなく、よりよい方法や使い方がないか、考えていく必要があります。

あまり使われなくなってしまった施設やスペースが空いている施設がある場合は、ほかの施設と合わせて、我々はこれを複合化と言っていますが、複合化を図っていき、施設の有効活用ができないかなどを検討していきます。

このように、今後、市民の皆様が必要とする施設は何かを考えながら、施設の配置と施設量の最適化を図ってまいります。

5 ページになります。金杉台中学校のある、高根・金杉地区の人口推計です。こちらはホームページ等でも公表されているので御存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、先ほどの現状でもご説明しましたが、市全体では少し増加したのち減少に転じるという推計ですが、高根・金杉地区の人口は各年代で減少していくことが想定されています。これは新高根・芝山地区、習志野台地区、八木が谷地区なども同様で、全 24 地区中、12 地区が減少していく傾向と想定されています。

続いて 6 ページです。②の「安全安心な公共施設等の整備」についてです。

先ほどもご説明しましたが、市では約 70%の建物が建築後 30 年以上経っているため随時、必要な改修工事を進めております。適切な整備を進めることで、建物をより長く使用していこうと考えています。また、今後はこれらの建物が一斉に建替えの時期を迎えていくこととなります。具体的に申し上げますと、2036 年頃から集中的に建替えのピークの時期を迎えていくこととなります。

金杉台中学校の整備については、近年トイレ改修工事や武道室の天井改修工事、校舎の耐震工事などが行われてきました。今後、必要と思われる改修工事としては、屋上の防水や外壁の改修工事や受変電設備の改修工事が挙げられます。市ではこのように、公共施設等総合管理計画に基づき、公共施設の最適な

配置を考えつつ、将来にわたり安全・安心に利用できる公共施設の整備を進めていきたいと考えています。

ここからは金杉台中学校の校舎整備のあゆみについて見ていきたいと思えます。7ページになります。昭和46年に開校し、昭和49年には体育館、昭和53年には技術科室、平成4年には武道室・プール等、平成7年には給食室、ランチルームと、時代背景などに合わせて順次校舎が整備されてきました。

8ページです。皆さん御存じとは思いますが、配置図にまとめるとこのようになっております。金杉台中学校の敷地は全部で21,200㎡、建物の床面積は全体で7,020㎡です。

9ページです。金杉台中学校の周辺状況です。

皆様はこの地区にお住まいということで、よく御存じかと思えますが、周辺には金杉台団地はもちろんのこと、市営馬込霊園や児童ホームや保育園などが整備されています。

10ページです。ここからは利活用方法の種類や、他市の事例をご紹介しますと思えます。

11ページです。建物の利活用の種類についてです。建物の全部を利活用する場合と建物の一部スペースを利活用する場合があります。建物の全部を利活用する場合は、ほかの公共施設への転用、民間への売却、貸付、又は地域住民の方たちの活動の場として提供、などが考えられます。一方で建物の一部スペースを利活用する場合は、ほかの公共施設や民間施設との複合化、複合化はせずに施設を規模縮小する、民間や地域へ施設を開放するなどが考えられます。

本日は幾つか、他市の事例をご紹介します。12ページからです。建物の全部を利活用している事例を四つほどご紹介します。一つ目は鋸南町（きよなんまち）にあります小学校の建物を利用した「道の駅・保田（ほた）小学校」です。旧体育館は直売所に、校舎2階は簡易宿泊施設「学びの宿」に生まれ変わりました。また、2階部分に入浴施設を増設。「まちの縁側」では日中は観光客と住民の交流の場、夜は宿泊者のリビングになります。保田小はテレビなどでも取り上げられているのでご覧になった方も多いいと思えます。

13ページです。こちらは学校ではないのですが、立川市の「子ども未来センター」です。市庁舎の新築移転に伴い未利用になった旧庁舎施設等を改修し、「子育て支援施設」「漫画図書館（まんがぱーく）」「市民活動支援施設」が複合する施設ができ、賑わい拠点に再編されています。

三つめが14ページです。鹿児島県曾於（そお）市の「たからべ森の学校・たか森カフェ」です。これは旧中学校の職員室を改装したカフェです。農業、調理、農産加工を専門とした職業訓練施設内にあり、カフェでは学校農園で栽培している野菜や地元野菜を中心としたメニューを提供しているそうです。

四つめの事例は15ページ、千葉市の例です。千葉市は真砂、磯部、幸町、花見川地区などで、近隣の小・中学校を再編して、25校あった学校を12校に再編しています。そのうちの一つである旧真砂（まさご）第一小学校は真砂コミュニティセンター（移転・拡充）を核として、複合5施設による活用をしています。①真砂コミュニティセンター、②障害者福祉サービス事業所、③地域活動支援センター、④自治会集会所等、⑤特別養護老人ホーム、といった五つの種類の施設が旧真砂第一小学校に入り活用しています。

16ページです。他市の事例を見てきましたが、今後、仮に進めるといった場合の進め方についてご説明いたします。船橋市では公共施設全体の見直しを行っており、その進め方についてです。まず各施設について現状把握と課題の整理を進めます。そして施設の方針案を検討します。これと並行して、市は今後、複合化や転用といった場合にどんなことを検討し、地域の方々と話を進めていくか、手順やルール作り、基準などを作っていきたいと考えております。また、将来の施設を考えるにあたって、学校が公共施設の半分以上を占める施設ですので、学校を中心に考えていく必要があることから、空き教室の定義とその確定作業を進めていきたいと考えています。これらを合わせて、施設の方針を決定していけると考えています。市はこのようにして、各施設についての考え方をまとめていく予定ですが、金杉台中学校については、これまでに考える会や説明会を重ねてきていますので、ある程度の現状把握と課題の整理は済んでいるところもあると思います。今後は、ある程度の方向性が見えてきた時点で施設をどうするのかを検討したいと思いますが、今、どの時点でという具体的な考えはございません。基本方針のところの説明しましたが、市では現在公共施設全体の見直しを進めています。ほかの施設の状況も考えながら公共施設全体の最適化を目指しております。どうぞ皆様からご意見をいただきたいと思いますが、ご意見をいただいても必ずしも全てかなうとは限りませんが、こういった説明会などで、皆様のご意見をいただきながら進めていきたいと考えております。

最後17ページです。お配りしました小冊子、「フナゲン☆コレ！」という漫画です。これは船橋市立船橋高等学校美術部の生徒に作っていただきました。高校生の目線で描いた漫画となっておりますので、ご一読いただければと思っております。お配りした以外にも必要な方は、受付に余裕がありますので、ご自由にお持ちいただければと思います。説明は以上です。

【司会】

教育委員会及び財産管理課からの説明は以上となります。これよりご質問、ご意見をお伺いしてまいります。本日は、ご参加いただいた全ての皆様からご

質問やご意見をいただきたいと思います。職員が順番にマイクをお持ちします。ご質問・ご意見等がございましたら、その場でお聞かせくださいますようお願いいたします。

【参加者】

最初に渡したいものがあります。教育委員会のほうに提出したいものがございます。こちらを提出させていただいてよろしいでしょうか。

【司会】

どのようなものですか。

【参加者】

前回の説明会后に、金杉台中学校の存続を求める陳情署名というものを、私たちつくりまして、こちらのほうに署名をいただきました。私を含めまして、837人分の署名が集まっております。願意としましては金杉台中学校を存続させることを前提として、住民と広く意見交換をすることを願いますというものです。理由としましては、「その1、船橋市教育委員会が示した金杉台中学校の統合が望ましいとする根拠は、少人数の学校規模による弊害の可能性が述べられているにすぎず、学校関係者、保護者、生徒など当事者の声は広く調査すらされていません。統合の根拠が不十分です。2番目としまして、団地の中の教育施設が一つなくなることで、地域の中の子育て世代の減少、高齢化のさらなる進展が加速されてしまう懸念があります。ひいては住民の互助という地域の機能が大きく損なわれる懸念があります。3番目としまして、中学校存続を前提として広く地域住民と意見交換することで、未来に希望を持ち建設的な話し合いをすることが可能となります。行政は住民のニーズをより正確に把握できますし、地域住民は主体的に地域社会の運営に関わることができます。ひいては行政、地域住民、学校が一体となって子育てをする地域づくり、地域活性化につながります。」というものです。このような陳情書面に対して、私以外に836名の方の署名をいただいたことをここで報告しまして、提出したいと思います。ご協力いただいた方々ありがとうございました。あとほかにも提出したいものがございます。

【参加者】

私のほうからは、金杉台小学校の児童から教育委員会に対する意見書を預かっております。子供たちは今までの説明会には来ておりませんが、来させたいともなかなか思えるような場でもありませんが、子供たちから直接手紙

を預かっております。それもここで提出させていただきたいと思います。一つ代表して読ませていただきます。「僕は金杉台小学校の生徒です。僕は金杉台中学校に行きたいので、なくさないでください。なぜ中学校に行く僕たちの意見を聞かずに大人たちだけで話し合っているんですか。僕たちの話も聞きに来てください。」他2人からは、「金杉台中学校をやめないでください。なぜなら御滝中学校ははじめが多いと聞いていて、しかも運動が厳しいのでやめないでください。」もう1人は、「運動会などで金杉台中学校と一緒にしたりするのが楽しくて、また金杉台中学校と一緒に何かしたいので、金杉台中学校を残してください。」という意見を預かっております。子供たちは中学校と一緒に合同でやっている教育内容に非常に満足して、とてもいいというふうに感じています。子供たちの意見を聞いてください。以上です。

【管理部長】

お預かりいたします。(マイク使用なし)

【司会】

それでは先ほどお話をさせていただいたんですけども、本日参加していただいた方、全てからご意見…。

【参加者】

すみません。今、そのことに対するご意見とかはないんですか。そちらのほうから。

【司会】

これまだ受け取った段階です。

【参加者】

真摯に受け取りますとか、そういう一言もないんですか。

【司会】

すみません、最初に意見を皆さんから伺うというところで、先にということだったものですから、こちらのほうで、取りあえず受け取らせていただきました。

【参加者】

その一言が大事だと思います。以上です。

【司会】

それでは、意見やご質問ございましたらお聞かせください。順番にこちらのほうで意見を伺います。大変申し訳ないのですが、後ろの窓側の方から、もしあればご発言いただければと思います。お願いします。もしなければそのまま次の方に、お返しいただければ。

【参加者】

おはようございます。市議会議員をしています橋本和子と申します。

私もこの会に、これで今回3回目の参加なんですけれども、いろいろと見てきました。このこういった会が立ち上がる前から、私もこの金杉台小学校PTA会長をしてきましたし、卒業した後もやはりこの地域が人口も減少してきていて、小学校が小規模になってきている。どうしたら子供たちが入ってくるのだろうかという事は、その当時から校長先生たちがかなり苦労されている姿を見てきましたので、議員という立場になってからも、かなり教育委員会の方とは議論させていただいています。

学区の変更についても私は、ここだけをいじるのではなくてやはり船橋全体を見ていただいて、それで、必要がないところは必要なしでいいですね。ただ必要があるところはここだけでなくほかの場所もあると思っていますので、そこはかなり私も訴えてまいり、ここは数年前から訴えています。正直なところ、この会が立ち上がる前から訴えてきていますし、現実にもこうしますと案なんかもいただく中でもかなりいろんなご意見は述べさせていただいています。

今回こういった形で金杉台中学校云々といったところと、今回財産管理課のほうから来ていただいて、船橋全体の公共施設の在り方というのを初めてこういった場で話を聞きました。私としては個人的にはどうしたらいいかというのは今まだいろいろと考えている最中です。ただ本当にここは真剣に考えていかなければいけないですし、議会の中でも言わせていただいています、万が一船橋全体を見てどうしても小規模校というのは幾つかあると。そのときにここだけではなくて、そちらの小規模校についてもしっかりと検討をしていただきたい。

で、万が一といった場合には意外とこの市のほうの進め方の中で、例えばある保育園の場合もそうだったんですけれども、移転をします、移転をしました。でも今まで使っていた保育園がじゃあ実際どうなるんですかというところとまだずっとそのままの状態っていうのが、意外と現実としてあります。そうするとこの金杉台中学校の場合もそれでは困るということで、私ははっきりと、もし万が一いろいろな形で統合という形をとるのであれば、しっかりとこの使い方を

一緒に並行して考えていただきたいということを明確に申し上げてあります。

で、いろんな形を私も提案をしておりますけれども、その提案をしていく中で、子供たちがここに残っていてもできることがあるのか。でもどうしてもやはり子供たちの環境の中で統合をした後、ここをしっかりと違うものにしていくのかどうかというのは、並行して考えていただきたいことを述べてきております。ですので今回こういった形で、財産管理課の方が今日来ていただいて、話が進めていかれるのはこれは一つ大きな進歩かなと思っておりますので、今後についてもそういった形の色々な視点からこの問題について、私は考えていきたいなと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

【参加者】

恥ずかしながら来るのは今回が初めてなのですけれど、在校生の親としては子供たちが楽しく中学校生活を送れているかどうかというところが一番大切なんですね。で、今のところうちの子供は、中学校に大変満足して明るく登校しているんですね。熱があるから学校休んでもいいよって言っても、いや、行きたいっていうくらい、楽しく行っているんです。まあ大規模教育の、ある程度複数学級があって、クラス替えもあってということはないんですけど、少人数の教育が全て悪いって言うわけではないと思うんですね。少人数だからこそいい教育もあるんですよ。だからそういう人たちのためにも残して欲しいなあと。財政とか厳しいとか気持ち的にはわかるんですけど、子供たちの選択肢として大規模のクラスに行きたいという子供たちはそこでもいいし、どちらかという少人数でやってほしいという子供たちの選択肢も残しておいてほしいなと思いました。以上です。

【参加者】

今こちらに通わせている保護者の一人です。数か月なんですけれども、小学校のときに不登校になった子が今中学生で、1日も休まずに学校に通っています。それだけ、大人数が苦手な子も実際現実にいるんです。義務教育で子供のことを考えるのであれば、ぜひこういう学校を残していただきたいと私は思います。その他に私は小学校に通わせている子供がいて、ここの中学校に通わせるつもりでいます。もしこの学校がなくなってしまうたら、統合されてしまうのであればどの段階で発表があるのでしょうか。

なぜかという正直今の御滝中学校に子供たちを通わせる気はあまりありません。なぜならいじめが多いという話とか、いろいろ問題があるというふうに聞いていますし、学力も低い。であれば私立に行かせるという方法も考えなきゃいけないと私は思っています。そうなった場合に急に、来年、再来年からな

くなりますと言われても、私たち対応のしようがないので、ぜひ早目の発表を、
どういうシミュレーションというか、手順で、決定して発表されるのかをす
ごく長いスパンで教えていただきたいです。皆さんにとっては大したことはない
かもしれませんが、子育て世代にとっては1年とか2年はすごく大事な
ので、そこをお願いします。

【教育総務課長】

今のご発言の中で、いつ決めるのか、発表について早めにご発言があ
ったのですけれども、これから皆さんとまだお話をしていく中で、いつとい
うのは今の時点では申し上げられないのですが、やはり段取り、手続きがござ
いまして、まず教育委員会の中で教育委員さんの決定をいただきます。

その後、市長に話をして市長の了承を得て議会にお諮りします。そういった
ことを考えますと、今日明日とか、教育委員会で決めてから1年というのも
なかなか難しいと思いますので、その間、我々は近いですから、御滝中学校と考
えていますけれども、例えば統合先となる学校との交流とか、そういったこと
を図りながら行っていきますので、ある程度期間が必要になるかと思
います。1年は難しいなと考えてはおります。

【参加者】

ある程度という期間が知りたいんです。

【教育総務課長】

そうですね、ほかの市の例なんですけれども、大体2年くらいかかっ
ています。統合して決めてから2年、そのくらいの時間が必要かなと思
っております。

【参加者】

発表はいつなんですか。

【教育総務課長】

発表、ですからそこがまだ皆さんとお話している最中ですので、そこは
まだ決まらない。やはり仕方ないなっていうところであれば、教育委員
会で決めていきます。

そこから、また先ほども申し上げましたように、議会にお諮りして、
という
ことで、議会の了承が得られて正式にオープンにということになります
ので、平均しますと2年ぐらいかなというふうに考えております。最初
の議会に出す
までがちょっとどのくらいかかるかが今正確には申し上げられませ
ん。

【参加者】

じゃあ私たちが、知れるのは最短で2年ということですか。

【教育総務課長】

いえ、議会に提案いたしますその前に、教育委員会で決めますので教育委員会でこうなりますということは、公になると思います。

手続き的に、皆さんがお知りになるというのはその段階になるかと思います。それで議会でお諮りして。

教育委員会で決定してからおそらく2年はかかるのではないかと思います。

【参加者】

条例改正のギリギリってなんですか、教えてください。

【教育総務課長】

議会にお諮りするっていうふうに申し上げたのですけれども、今この金杉台中学校がありますという「設置条例」がございます。金杉台中学校が今後統合になりますと、その条例改正を議会に承認いただくということになりますので、議会に諮るとするとその条例改正のお話になると思うのですけれども。

【参加者】

後日わかりやすく文書で説明していただいたらいいんじゃないですか。

【教育総務課長】

まず教育委員会に諮ります。そこでこう決まりましたというのを議会に説明していくと思います。ただ議会で正式に決まるとなると、条例を改正するという手続きが必要になります。

【参加者】

時間のリミットがあるので、このやり方だと絶対回らないと思います。なので、挙手で、意見とか質問したらダメなんですか。

【司会】

ご意見がない方もいらっしゃると思うのですが、ある方もいらっしゃるのでは。

【参加者】

先に言いたい方を、話してからでいいんじゃないですか。

【司会】

すみません。こちらのほうで順番に進めさせていただきます。質問が出て、一つずつ答えていると、時間の限りもあるので、幾つかまとめて答える、又は後日こちらからご返答するという形になることもあると思います。次の方、お願いします。

【参加者】

地元の町会長をしています。今伺っていて一つ気になるのは、多分皆さんご意見たくさんお持ちの方が今日お集まりと思うんですけども、今まで考える会で、地元とか学校の関係者も含めてのご意見をまとめてきていると思うんです。ただ考える会の中に今日お集まりの皆さんが必ずしもメンバーに入っていなかったという点が、一つそれでよかったのかなと私は気がかりです。あくまでも、今中学校に通ってらっしゃる生徒さん、あるいはここに来るであろう金杉台小学校中心とする児童の子供さん、その子供さんたちを本位に考えれば物事が進んでいくと思うんです。ぜひそこは行政におくみ取りいただきたいというふうに考えております。以上です。

【参加者】

船橋市市議会議員をしております。文教委員の副委員長です。池沢みちよです。本日はこちらの会にぜひ来ていただき、生の声をということでお手紙をいただきまして、参加させていただきました。第一印象としましては、やはりどうしても統合ありきに聞こえます。丁寧に説明しているという話ですけどもそういうふうな印象がありました。あともう一つ、今、「議会が」と、教育総務課長がおっしゃっていたんですけども、そういうふうないうと皆さんには統合ありきではなく進めてもらうような議員を選んでいただくというようなことになってしまいますし、議会に提出する前にもたくさんの議員に丁寧に説明をして統合ありきで進めていくように感じられてしまいましたので、あまり議会、議会っていうふうには言わないでその前にしっかりと市民の皆様と丁寧に説明をしていただきたいなあというふうに思いました。以上です。

【参加者】

御滝中学校区域の住民です。御滝中学校区域はこういった会が開かれていることをほとんど知られていません。小学校に初めてこの説明会があるという内容の手紙が来ただけですので、まだまだ全然周知がされていないのが現実です。

御滝中学校にこれからまた増えるというのは、今でも結構多い状況ですので、問題だと思いますし、日大のグラウンドというのが、600世帯っていう計画も実際にあるということも聞いています。今東京オリンピックで止まっているような状況と聞いております。宅地も開発も結構進んでいますので、そういった事は勘案されているのかということと、あと通学区域を変更するという案ですが、近いと御滝中学校に行くって決めてらっしゃるようですが、近くても魅力ある学校のほうに行きます。近いから御滝中学校に行くとかそういうことではないと思います。現状、御滝中学校と金杉台中学校というのは全然違う、比べるというか、生徒数が全く違い、明らかに差が大きいので、そこをどんどん埋めて、魅力ある学校にすれば変わってくると思いますので、ぜひお考え直しいただきたいと思います。

【参加者】

在校生の父兄です。うちは、小学校は金杉小学校で、御滝中学校でも金杉台中学校でも選択できる区域で、こちらに来させていただいています。卓球がやりたいと言ってこちらに進学させていただきました。本人は、このような学校が統合されるということを全く一切聞かされず、入学してまいりました。うちは友達が結構御滝中学校に行っているんですけど、やっぱり1クラスできるくらい不登校の子がいると聞いているので、父兄としては、こちらのきめ細かい学校に通わせていただけてすごく良かったなあと感じております。統合したときに御滝中学校に受け皿があるのか、それぐらい不登校の子がいらっやっして、それを見きれていない学校の状況があるのに、そちらにもしそのボリュームが行って、対応ができるのかというのを教えていただきたいです。

【司会】

先ほどちょっとお話ししたようにですね。非常に多いので、質問については後で、こちらで答えられる部分をお答えしてという形にしたいと思います。

【参加者】

はい、お願いします。

【司会】

次の方お願いします。

【参加者】

子供が在学している保護者です。うちは同じく、金杉小学校からこちらに選

んで来ました。金杉小学校でバスケもやっていて、中学校でバスケをやるって目標は持ったままこちらの学校に入学させていただきました。本当は御滝中学校に行けばそのまますぐバスケ部もある中でこちらをわざわざ選んだんですが、先生たちが本当によくしてくださいまして、バスケ部同好会として作ることもでき、今年の4月から登録もしていただき試合にも出れるような形にさせていただきました。何よりも本人がとてもこの学校を選んでよかったと言っています。それは多分少人数だから先生の目がとても行き届いているんだなというのが、保護者の方も多分皆さんそう感じているんじゃないかなと思います。その子供たちの声っていうのが一つも届いていないという現状がとても残念に思います。少しでも子供の意見を聞いてもらいたいなと思って今日はここに参加させていただきました。通っているのは本人たちです。ここに毎日毎日足を運んでいるのはここにいる生徒たちです。その子供たちの意見を無視して大人だけで話をしているのはちょっと残念だなと思っております。どうか子供たちの意見を聞いてあげてくださいよろしくお願いします。

【参加者】

近くの町会の町会長をしています。今資料を見せていただきまして、例えば最初の資料の9ページを見てください。金杉台中学校生徒一人当たりの負担ですね、それと一般の中学校生徒1人当たりの平均ですか、この金額がちょっと3倍というところでびっくりしたんですけれども、統廃合とかじゃなくて、こういう現実を見るといろいろ考えなきゃいけないと思われたと。

私どもの町会も、60歳以上が7割を占めるような形で、今のような老人世帯ばかりで、これから若い人が増えるのかどうか。ほとんどが年金をいただいて生活しているような状況ですので、これだけの負担をいつまで続けていけるのかわからないですけれども、先ほどちょっとお話ありました。例えばこの資料だけで言いますと、Aの金杉台中学校の市の実質負担額5,346万円ですけれども、これをどうやって捻出するかということもあります。市会議員の先生も複数名いらっしゃるので、5人くらいやめていただければそのくらいの予算は年間ですね、出るんじゃないかと前向きな発想としてはそういうことかなと思います。

ただ存続を訴えていく方の言い分もあるでしょうし、財政的に、今税金を納めている先ほどの在学生の親御さんたちもあとじゃあ25年したらどうなりますかということを考えて、この子供たちが地元で根付いてここで生計を立ててくださるのであればいいかなと思いますね。それだけコストをかけても。でも現状として、あまりここらに魅力がないので、先ほどもおっしゃったようにこちらから同じ船橋市で、西部の西船とか、向こうの交通の便のいいほうへ移動しち

やっていますので、そういういろいろなことを考えて物事を決めたほうがいいかなど。

先日も金杉台小学校の卒業式に行ってきましたけれども、47人卒業して、こちらに入学する方が17人かな。そして、27人が御滝中学校へ行くと、いうような話でございました。

存続を云々ということも当然ですけれども、少数でなかなか手厚いと昔から言われていました。であれば、そういう特別な学校にしようというのも一つの方法かなと思います。フリースクールみたいなですね。金杉台中学校はフリースクールで、不登校の子が行っても楽しい学校だよというような形になれば、それはそれで存在意義があるのかなというふうに思いますけれど、ちょっとこの9ページの資料を見ると、なかなか難しいかなというふうにも思います。以上です。

【参加者】

おはようございます。私も今日初めて参加させていただきました。今まで言われていた意見の中に大体入っているんですけど、時間もありますことだし、ただ1点、他校に移転するという点に関しては、学校のいじめだとか、先生が悪いとか、そういった批判的なものはなくして考えていきたいなど、このようには思います。どこでもいじめがあるとは言えないんですけども、それをなくして行こうというのが私たちでもありますし、教育委員会でもありますので、ぜひそこらへんではなくて、今は与えられたその統合をどうするかという意見に対しての話のほう、意見を出すというのは非常に大切なことですので、いろんな意見を出していただいた上で、それを煮詰めていくという話し合いをしていければいいかなどそのように思っております。以上です。

【参加者】

金杉台中学校をなくしてしまうという意見は反対です。やっぱり実際に学校に行くのは子供たちなので、さっきもちょっとお話にあったんですけども子供たちの意見を全く聞かずに大人たちの話し合いだけで決めてしまうということにどうしても疑問を感じてしまいます。前回の話し合いのときに何で子供たちに意見を聞かないんだという話をしたときに、何か、「癌かもしれない人にあなただけは癌かもしれないですよというふうに言って不安を与えるべきじゃない。だから子供たちに話さないんだ。」っていうふうなことを確かおっしゃっていたと思うんですけど、ちょっとその考え方には正直納得できないので、やっぱり当事者である子供たちの意見を尊重してあげてほしいです。以上です。

【参加者】

市民ですけれど、遠くから参りました。議会それから文教委員会の模様をネットで見ておまして、地元の皆さんの当事者の気持ちが全く無視されている。そして行政側の議員もそうですけれど、これに本気で真剣に自分の子供のことのように考えている人がほとんどいないというふうに見受けられましたので、今日生の姿を見たいと思って遠くから参りました。

もし本当にここに生まれて、今育ってそれだけ自分の学校を愛してこの学校で卒業して中学に行きたいという、そこを卒業したいという地元の多くの皆様の当事者の声を本当に真摯に受け止めてもらいたい。そして公務員、お役人、行政というところのその権力でどうにでもなるんだと、なんかもうこの地域が船橋市の中で見捨てられたように伝わります。

だから同じ人間として、あなた方も親の子であり、自分たちも思い出があると思いますので、ここで暮らす当事者その人たちの生の声をもっと。議会でも傍聴だし、文教委員会でも一言もしゃべれないところで、一方的な決め方は慎むべきだと思います。そしてもし予算がどうのこうのということであれば、無駄がたくさんあります。さっき出ましたけれども、議会費に9億5,000万使っています。それを無駄な旅行とかいろいろなところを見直せば、5,000万円くらいはすぐに来年の予算から出ますので、予算の心配はないと思います。そのせいでこの皆さんの人生、今子供たちは傷ついているんですね、市の進め方によって。だから未来ある子供たち、金杉台の子供たちを見捨てるようなことなく、削るところを別から見つけて、この人たちが、もうこんな学校本当に要らないなんていう声が多くなるまでは、私は存続するということが常識ある心ある人間の行政のやり方だというふうに思っております。

【参加者】

選択地域にはいつている小学生の親です。私は金杉台中学校出身です。主人は御滝中学校出身です。今小学校でいろいろ役員をやっていることがあり、教育委員会の講演会等で今勉強させていただいております。いじめ・不登校問題。私の周りでも多くて今聞く限り子供の友達でやっぱり家は引っ越さないのに学区変更して転校するとか。昨日聞いたばかりなんですけれど、そのお家の事情も含めてですけど、最初3人と聞いていたのが、昨日2人プラスでうちの学年から5人もいなくなるって聞いてびっくりしたところです。

それから、今実際に御滝中学校の先生から、先日松本文化教育長の講演会のときに御滝中学校での不登校問題が多くてという職員の先生からのご質問もありました。そして学区変更、学区の選択の話で、じゃあ御滝中学校から金杉台中学校に行こうっていう人を増やせばいいんじゃないかと単純に思いました。

金杉台中学校はこれ以上増えないんだよってという意見ばかりじゃなく、御滝中学校でそれだけ不登校が多いなら金杉台中学校に、ちょっと距離はあるけれど行ってみようっていう子供たちがいるのではないかと思います。

今1学年例えば8クラスでしたら3学年で24クラスだともう規模が大きすぎる。先ほどもほかの保護者からもありましたけれども、きめ細かい対応が先生方できるんですか。教育長に対してうちの学校こうで困っているんですけどいう先生方からの質問が出るような問題の学校に、今金杉台中学校に満足している保護者の方が自分の子供をそこに行かせるわけがないと思います。兄弟でお兄ちゃんお姉ちゃんが金杉台中学校に行っている。下の子たちも行かせたいと思っている保護者はどうしたらいいのか。簡単に統合を進めないでいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

【参加者】

市議会議員の石川りょうと申します。私は文教委員ではないんですがお便りをいただきましたので、本日参加させていただきました。初めてでございます。まず率直に申し上げますと、議会のことについて大変厳しいご意見をいただいている、我々の視察のことだと思いますけれど、そういったものを旅行だとかこう言われてしまっている我々議会・議員の側に真摯に受け止めなければいけないところがあるというふうに思っています。今までのご意見を伺っていて、ほんと皆様のおっしゃられることはもっともだなって思う部分がありました。それは特に市民の皆様、特にこの地域の住民の皆さんそして学生の皆さんともっとお話をすべきなのかなというところは私も実直に思っております。

しかしただ、皆さんが少し誤解されているかもしれないと私が感じるところは、教育委員会でも、我々議会・議員も、何も子供のことを考えていないわけではありません。このことだけはちゃんと申し上げておきたいというふうに思っています。子供さんたちだけとお話するということだと、親と、当事者の通っている学生は今の現状がいいに決まっているんです。けれども先ほど教育委員会がご説明したとおり本当に1クラスしかないことの問題が、私はあると思います。いろんな意見があると思って、それには違うという方もいらっしゃると思いますけれども、私はそう思います。もっとクラス替えができたり生徒会といった活動とか、課外の活動もできたりということもあると思いますので、そういったことは地域の人や子供たちというところだけが考えるのではなく、市全体、我々議員もそうですし、教育委員会、そういった大人の人たちが真剣に考えてあげるべきところ、それこそわれわれ大人や、議会や、教育委員会といったところの力が必要なのではないのでしょうか。

最後に1点申し上げておきたいのが、私は芝山というところの出身で、芝山

西小、芝山中学校を卒業しております。私の地域も例にもれず少子高齢化の波にのまれていまして、人も減っています。これから間違いなく統廃合の話も出てくると思います。特に小学校。でも私は自分が芝山西小学校を出ていますが、出ているからというだけの理由で、統廃合を考えないということはない。それだけはしっかりと申し上げておきたいと思います。以上です。

【参加者】

子供が金杉台小・中学校を出ています。前回は出席させていただいて、お金の話、一人当たりの金額の話は、今回出てきました。前回は質問があったと思うのですが、一体、小規模校より大規模校のほうが良いというエビデンスが今回まったく数字的にも何も出てこない。いじめとか不登校の話がいっぱい出てきましたが、大規模校では一人当たりどのくらいのいじめが発生していて、どのくらいの不登校が出ているのか。金杉台中と御滝中学校と比べたらどうか、市内の中で比べたらどうか。そういった数字。それから、学力も共通のテストをやられている。大規模校とそうでない学校では、どのくらい点数が違うのか。とにかくエビデンスを数字で表してもらわないと。全部ここに書いてあることは「感じ」なんです。イメージで話されている、としか思えないのです。クラス替えができたなら何がいいのですか。コミュニケーション能力が高まるのだったら、クラス替えがある学校のほうがコミュニケーション能力は高まるといったものを示してください。そうじゃないとわからない。以上です。

【参加者】

子供、孫が金杉台中学校を選んで卒業しています。質問ですが、この統廃合の問題で、金杉台中学校が小規模。そして建物は老朽化している。一つは小規模化することを防ぐ努力はしていたのでしょうか。ここは御滝中学校と金杉台中学校を選択できる学区になっていますが、金杉台中学校の小規模化を防ぐ努力はしていましたか。

もう一つは、もしこの学校が老朽化ということであれば、御滝中学校は老朽化していないのでしょうか。その二つです。

【参加者】

いつも市教育委員会の御説明が非常に長く、こちらの質問と意見の時間は少な目に設定されております。長くなりますが一気に私のそちらへの質問と意見を申し上げます。途中、辛辣なご意見を申し上げ、お聞き苦しい点多々あると存じますが、御無礼の段、平に御容赦ください。これは現在の私の本音であり、市教育委員会の皆さんに抱いております気持ちです。それから、市議会議

員の方々のお名前は、はっきり本名で申し上げます。ネットで公表されている「記録」にも、明記願います。最後に、質問点をもう一度最後に確認しますので、答えられるところは答えてください。答えられないことは後日文書でご回答ください。

なぜ説明会会場を、今までの体育館ではなく、狭い部屋にしたのですか。「どうせ説明会に参加する人間は少人数になっていくから、この部屋で充分だろう」と考えたのですか。そう私は考えてしまったのですが。

果たして本当に御滝中学校付近の住民の方々にも、今回の説明会の案内は出したのですか。広報されたのでしょうか。昨年12月13日（木）開催の船橋市議会文教委員会では「出す」旨教育総務課長の方が明言されています。果たして本当に出されていたのでしょうか。出されていたのならもっと集まると思います。

その文教委員会の場で、市教育委員会の教育総務課長が「意見交換会」ではなく「説明会」、私に言わせれば「説得会」だと思いののですが、その「説明会」であることに固執していらっしゃるようですが、「まずは統廃合ありき」というスタンスでこうした説明会を開催している旨、明言されています。統廃合は決定事項だから議論の余地はない、だから「意見交換会」ではなく「説明会」という理屈です。ということは、以前この説明会の場で、「金杉台中学校統廃合については白紙の状態」とおっしゃっていたのは「嘘」ということになります。どうしてそんな「嘘」をつくのですか。

先日2月16日（土）市教育委員会松本文化教育長の御講演の場で、直接私は金杉台中学校統廃合の件について伺いました。なお、松本教育長は、私の中学時代の恩師で、大変お世話になった方です。その際、「統廃合についてはまだ何も決まっていません。皆様の意見をよく聞いて決めていきます」というお言葉を頂戴しております。それも「嘘」ですか。

先日3月14日（木）、私の友人による「陳情第33号『金杉台中学校統廃合問題に関する陳情』」についての文教委員会継続審査がありました。その際の傍聴記録によれば、神田廣栄・長谷川大議員らによる「陳情者に淡い期待を持たれても困る」というコメントがございました。

また、七戸俊治議員による「昔は大人数でも偉人はたくさん出た。昔を否定するのか。過去、現在、未来と繋がらなければいけない」というような、私に言わせれば、時代錯誤もはなはだしい、現在の教育現場を全く御理解されていない老害的なコメントも出たようです。こういう過去の経験ばかりを判断材料にして、現在の世の中をよく御存じない方は、実際の教育現場に行き、数年間教壇に立ってしっかり研修を積まれることをお勧めいたします。実際に高校・大学の教育現場におります私からの切なる願いです。これは皮肉でも何でもあ

りません。議員の方々にも教育現場については是非学んでいただきたいので、あえて苦言を呈している次第です。

他にも、昨年12月13日（木）開催の船橋市議会文教委員会では、島田たいぞう議員による「この問題は、船橋市の公共施設等総合計画においても、Dランクという形で、一番評価が低い。それから、行財政推進会議においても、いろいろ議論されているところで、早急に住民の合意を得なさいということで結論を得ている。それからまた、金杉台中学校の対応策の今後の教育委員会の考え方に沿って、僕は今後どんどん進めて」というコメントもありました。

金杉台中学校統廃合計画は、水面下で粛々と遂行されていると私は考えています。金杉台中学校近辺にお住まいでもない議員の方が、地域住民の直接の声に全く耳を傾けることなく、このような発言をされていることを、市民として、大変残念に、そして情けなく思います。このようなお考えの方こそ、説明会、私に言わせれば「意見交換会」に足を運ばれるべきだと思います。その手間を怠り、算盤勘定だけで教育・地域環境を改悪するという姿勢は、市議会議員として無自覚、無責任過ぎると思います。憤りを覚えます。皆さん方お役人は、市民をどれだけ馬鹿にすれば気が済むのですか。私は現在、市教育委員会に不信感しか抱いておりません。

現場教員のアンケート、金杉台小学校・金杉台中学校・御滝中学校の子供たちのアンケート実施の要望も全く無視されています。いつになったら実施するのですか。実施しないのですか。肝心の当事者を差し置いて、一部の大人が勝手に一つの中学校を廃校にする。ひどいと思います。民主主義とは、まず当事者の意見を聞き、それを踏まえたうえで政策が提案され、審議され、決定されるものです。しかし、先程の神田・長谷川両議員が口にされておられる「陳情者に淡い期待を持たれても困る」とは、市民にとって、非常に屈辱的なコメントです。民主主義の捉え方を私は間違っ理解していたのでしょうか。

まず決定した政策があり、それを実現するために、保護者・地域住民を「説得」するために、こちらの気力と体力が尽きるのを待つまで、千日手で説明会が繰り返されるのでしょうか。私は自分の子供や生徒・学生たちに「この国の民主主義とは、まず結論が先にあるんだよ」と教えなければならないのでしょうか。だとすれば、私は市長宛「陳情書」にも記しましたが船橋市政に失望、絶望するしかありません。ある程度の回数の説明会開催というのは、統廃合を進めていく上でのアリバイ作り、あるいは遂行計画の一環としてのノルマ消化をしているだけなのでしょうか。こうした説明会も果たしていつまで開催されるのか、全く不明です。私たちは、本来ならば家族との団欒や仕事の時間等に使う貴重な時間を、わざわざ割いて毎回の説明会に参加しております。一方、市教育委員会の皆さんは、勤務としての時間であるわけですが。しかし肝心の

その場では、保護者・地域住民の意向が聞き流され、全く無視されています。今までの説明会で、市教育委員会がこちらの要望を聞いてくださったのは、次回説明会の開催日をちょっとだけ早めに出してくださるようになったくらいです。

このような不毛かつ杜撰な手続きを経て、やがて中学校1校が廃校、その後周辺地域、特に金杉台団地付近も連動してさびれていく。すぐ近くの中学校が潰されることで、金杉台団地に住もうとする子育て世代の足が必然的に遠のくわけですから、周辺地域がさびれてしまうことは充分予想されることです。このような事態になった場合、市教育委員会はどのような責任を取ってくださるのでしょうか。この質問を前回の説明会時にしたところ、管理部長は、「統合して町がさびれてしまったときに教育委員会は責任を取れるのかという質問ですが、私たちが責任を取るべきことは子供の教育環境を守ることだと考えています。その結果、街がさびれないようにするというのももちろん考えていきたいとは思いますが、市全体でももちろんそうですが、教育委員会としては子供たちの教育関係をどうしたらよりよくできるか、そういったことを考えています」と明言されました。さらりと聞くとうっかり聞き流してしまうような「きれいな」「丁寧な」御回答です。しかし、つらつら反芻すると、市政に携わる方のコメントとは思えない無茶苦茶な回答です。これはつまり「自分たちは専ら子供の教育環境を担当しているのであって、地域がさびれる等の点については関知しない」という意味合いで受け取れます。加えて、市教育委員会は金杉台中学校廃校により災害避難場所がなくなることについても「関知せず」の姿勢をはっきりとっています。大変驚き、そして失望しております。縦割り行政の弊害を感じさせる市教育委員会の非常に残念な御回答でした。

文科省「教育委員会制度について」によれば、そもそも教育委員会は「特定の政治色に染まらず、地域住民の意向を踏まえて、子供の教育行政を行うための組織」という存在意義があるはずですが、市教育委員会は地域住民の意向を踏まえず、まして地域住民の住環境すら侵害しようとしています。どうしてこのような頑迷・無理解な御回答が平気で発せられるのか、理解に苦しみます。

他方、さる方からこんな話も伺いました。「金杉台中学校は、現在の小学6年生が中学校を卒業するまでは、廃校にならないだろう。しかし、5年生は、中学在学中に廃校になる可能性がある」これは然るべきところからの情報なので、真実だと思われまます。

市教育委員会の今回の統廃合に関する対応のまずさについて、野田市教育委員会の対応になぞらえて、船橋市教育委員会に対する不信感を訴える保護者・地域住民の方々の声をよく耳にするようになりました。野田市教育委員会は、子供の心に寄り添うことをなおざりにし、教育機関に携わっている職員とはと

うてい思えない「素人的」あるいは「お役所的」判断で問題に対応し、結果取り返しの付かない大きな悲劇を招きました。こうした組織の体質を、子供・保護者・地域の方々の声に耳を傾けない、寄り添わない船橋市教育委員会に重ねてしまうのは、私だけではないということです。先日「統廃合先」の御滝中学校の保護者の方からお話を伺う機会があったのですが、それによると「金杉台中学校の統廃合の話については全く聞いていない、とても驚いた。御滝中学校はクラス数が増えてしまい、教室確保が大変だと校長先生が話されていた」そうです。そして「現在でも御滝中学校は生徒がぎゅうぎゅう詰めの過密状態なのに、統廃合によって生徒がこれ以上増えてしまうとしたら、それは非常に困る」ともおっしゃっていました。金杉台中学校は単学級で廃校を強硬に促され、御滝中学校は教室不足。そもそも、金杉台中学校が単学級になっていったのは、今まで市教育委員会が学区について適切な対応をしてくれなかったからです。それが意図的なのか、そうでないかは存じませんが、そういう理由です。

なぜ市教育委員会は、このような御滝中学校・金杉台中学校との学区の悪いバランスを是正しないで、金杉台中学校統廃合のみにひたすら邁進するのでしょうか。市教育委員会は明言しませんが、やはり施設設備費、教員人件費等のコストカットのためなのでしょう。市教育委員会は、地域の子供たちの教育環境向上ために尽力する教育のプロである、と従来は考えておりました。

しかし、直接のやり取りを経て、実際の印象はかなりマイナスなものへと変わりました。少人数教育のメリットを殆ど考慮せずあるいは無視し、そのデメリットのみを教育の素人である保護者・地域住民に、統計や推計データを見せるなどして、印象操作的に植え付けようとしています。私から言わせれば、教育活動に、数字だけの、しかも子供の数が少ないから部活動ができない、だから学校を1校つぶす、何それ、という思いです。データによる論証がどれだけ説得力があるものか、と思います。そして統廃合によって生じる様々な弊害については、想像されないのか、わかっているも「対岸の火事」として気になさらないのか、淡々と統廃合に向けてお仕事を進めていく、いわゆる「お役人」「事務屋」のような印象です。市教育委員会がそのような方々ばかりで構成されているのだとしたら、船橋市の教育行政に携わる人間としては多分に適性を欠いている方々の集団と思われても仕方ないと思います。そして、市教育委員会は、市民から、行政のまずい運営・手続きをとる部署の典型だと思われても仕方ないと思います。現在、私は船橋市民であることに誇りを持ってません。そして、自分の子供を市立の学校へ通わせることに強い不安を抱いております。これは私だけの考えではなく、最近、周囲から頻繁に漏れ聞こえてくる声です。

とにかく、教育に関するこの大きな問題を、現在の状況のようにいい加減に処理してしまうことは、船橋市政が市民の大きな反感を買う、また金杉台中学

校付近の地域崩壊にも繋がりがねません。間違いなくそうなると思います。

この説明会の場に、市長・市議会議員・小学校と中学校教員・小学校と中学校の子供たちとその保護者の方々も同席させてください。3月14日（木）の文教委員会では、高橋けんたろう議員が「文面からは丁寧に説明されているのかなと見受けられる」とコメントしています。このコメント、正直愚かなコメントだと私は思います。市民の声を全く無視している市教育委員会のゴリ押しの説得文書は、単にボリュームがあって、丁寧な文体で記されているだけです。その文書を読んだだけで、高橋議員は物事を判断していらっしゃいます。よくそれで市議会議員が務まるな、と私は思います。市教育委員会作成の文書は、確かに膨大な分量で、労作ではあります。

しかし、一見して丁寧に思える、その実、作為と偏見に基づいた、内容のないものです。我々が質問・意見した内容を、市教育委員会がじっくり時間をかけて、自分たちに都合の良いように文章化し、それを市議会議員の方々に読ませているだけです。高橋議員の勘違いのように、市教育委員会のそれが「丁寧な説明」と受け取られてしまっているならば、これはある意味、我々が市教育委員会の文書作成に貢献している、塩を送っている形になっているわけです。

「説得会」、もとい「説明会」ではなく「意見交換会」。そして金杉台中学校統廃合計画の即時中止を。学区を見直す、これだけ統廃合に関する文書を緻密に書き上げるスタッフがいらっしゃるわけですから、決して難しいことではないと思います。

あるいは金杉台中学校を「特認校」にすればいいと思います。これについての構想はないのでしょうか。あの自然豊かな環境を利用して、選抜制にして、優秀な生徒を集めて、実験的な教育を推進する。きっと船橋市政の良い売り物になると思います。

以上よろしくお願ひします。質問についてですがもう一度確認させてください。全部流さないで、真摯にお答えください。

なぜ会場を、今までの体育館ではなく、狭い視聴覚室にしたのですか。

果たして本当に御滝中学校付近の住民の方々にも、今回の説明会のご案内は出されたのか。

文教委員会の場所で、「意見交換会」ではなく「説明会」に固執していらっしゃるのですが、「金杉台中学校統廃合については白紙の状態」とおっしゃっていたのは「嘘」ということになります。どうしてそんな「嘘」をつくのですか。

松本文化教育長の御講演の場で、「統廃合についてはまだ何も決まっていません。」というお言葉を頂戴しておりますがそれも「嘘」ですか。

金杉台中学校統廃合計画は、水面下で遂行されているのではありませんか。現場教員のアンケート、子供たちのアンケートは実施しないのですか。

説明会はこれから先も我々の気力と体力が尽きるまで、延々と繰り返されるのでしょうか。それがアリバイ作り、ノルマ消化をしているだけなのでしょうか。

もしこの地域がさびれてしまったら、やはり責任はとりません、ということでしょうか。

然るべき方からの情報で、現在の小学校6年生が中学校を卒業するまでは廃校にならないが、5年生からは中学校在学中に廃校になる可能性があるというのは実際のところ本当なのか。

御滝中学校は非常にクラス数が多い、金杉台中学校は単学級が続いている。非常にバランスが悪い。なぜ金杉台中学校統廃合のみにひたすら邁進するのでしょうか。やはり人件費カットのためなのでしょうか？

説明会の場に、市長・市議会議員・小学校と中学校教員・小学校と中学校の子供たちとその保護者の方々もなぜこの場に同席させないのか。同席させてください。質問と要望。

「説明会」ではなく「意見交換会」をなぜ開催しないのですか。開催してください。質問と要望。

学区を見直すという簡単なことがなぜできないのですか。それで解決すると思うのですが、学区の見直しはどうしてしないのですか。

金杉台中学校を「特認校」にすればよいではないですか。これに関する構想はないのでしょうか。

市教育委員会の組織中に、実際に教育について学ばれた方は何人いらっしゃるのか教えてください。教育学部を出たとか、教育に関する研修期間を積まれた方は組織中に何人何割ぐらいいらっしゃるのですか。

本日この説明会に同席されている市教育委員会の若い職員の方々は、実際にどうお考えかご意見ください。市民の声は聞き流されるものなのでしょうか。今まで、全然若い職員の方がご意見をおっしゃっていないので、このような会議の場で考えていることをお答えいただければと思います。

今日の説明資料「第2回金杉台中学校に関する地域説明会」の「いただいたご意見について」、「コストについて」なんですが、この説明の中には、「教員人件費」が入っていません。先生方のお給料は1,000万円いくのかわかりませんが、金杉台中学校の先生方が10人弱いらっしゃるんですか。単純に掛け算すると、金杉台中学校の市実質負担額の5,346万円よりもはるかに高いお金がかかるんですが、これは多分、先生方の人件費は都道府県が負担しているんですよ。それについても明記していただきたいと思います。

財産管理課への質問で、2ページ目で「厳しい財政状況」とありますが、ネットのニュースでは「船橋市が市立の児童相談所2025年に開設。新年度当初予算

案は 2,121 億円」とありました。金杉台中学校跡地もその候補地に挙げられているという噂もあります。新年度当初予算案 2,121 億円とありますが、厳しい財政難、さらに厳しくさせてしまいますが、これについてなぜ明言されなかったのかということです。

財産管理課レジュメの 13 ページ辺りですが、いろいろと廃校となった後の跡地の説明がされていましたが、厳しい財政状況で、こんな施設を作り出す予算はどうやって出るのですか。素朴な質問なんですけれどもそれについても教えてくださいたいと思います。

最後に、16 番目の質問をしましたが、今日いらっしゃっている教育委員会の若い職員の方々、普段話をされる機会がないので、せっかくですから若い職員の方が、この説明会どういうふうに使われているか、お答え願いたいと思います。

【司会】

今まで伺ってきましたので、この後も伺っていきますが、可能でしたら、うまくまとめて質問していただければと思います。次の方をお願いします。

【参加者】

団地自治会会長を務めています。地域説明会の前の「考える会」からずっと参加しています。統廃合に反対の立場でずっと物申しています。前の方が全部言ってくださったので、そちらの背広を着ている方々が、心の背広、制服を脱いでいかないと、するすると入っていかない問題だと思います。説明会というよりは、意見交換会にぜひしていただきたい。休みの日ですから、普段着で来ていただきたい。私たちと膝を交えて、ぜひこのことについて真剣に心と心で話し合ってください。

現状については、皆様がおっしゃったとおりですが、この話を教育の現場、教育環境をどうする、というだけで、切り取って考えていただきたくない。この団地の賃貸エリアというのは、独立行政法人都市再生機構、前身は日本住宅公団が管理している賃貸住宅です。全国的に非常につながりがあります。団地の中に空き家が増えている。団地の中の小学校が統廃合されている。それは全国各地で起きていることです。それに対しての解消策についても常々話し合っているのですが、すぐ調べればわかりますが、ほかの団地で、団地の中の中学校、中学生たちと一緒に防災訓練に交えています。なぜかというと、5階建てでエレベーターがない。高齢化率が6割、7割もざらです。そこで何かあったとき、安否確認の問題がでてきます。4階、5階が被災した場合にそれを救う人も高齢者。どれだけ私たちの自助力があるかということが非常に問題になってきます。

そこで、高層階にいる高齢者を中学生が安否確認を担当する。そういった意味で合同で防災訓練を行っている。金杉台中学校でも可能なはずなんですね。防災の観点からみても、金杉台中学校の生徒さんたちは私たちにとって本当に貴重な宝で必要なんです。そういった意味でもなくしてもらいたくない。

御存じとは思いますが、国策として、地域包括ケアシステムの構築が進められています。団塊の世代が75歳以上となる2025年をめどに、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられるよう、住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していくと。保険者である市町村や都道府県が地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていく。これは、公団住宅の賃貸も地域医療福祉拠点、いろいろなところでこういうことをしてきた。是非、俗にいうURと相談して、この団地をどう活用していくか。それも踏まえて考えていただきたい。地域包括ケアシステムというのは、おおむね30分以内に必要なサービスが提供される日常生活圏域というのがあり、これは具体的には中学校区なんです。ここまで言えばおわかりになりますよね。団地の中の中学校がなくなって、御滝中学校だけになってしまったら、地域包括ケアシステムの構築はどうなりますか。この観点から私は金杉台中学校は絶対になくしていただきたいと思っています。教育の現場だけですっぱりと切り取って話すべき問題ではない。

【参加者】

石川りょう議員、今日来ていただいてありがとうございます。文教委員会の議員さんを調べて、その方たちに出したつもりだったのですが、違ったようです。議員さんということなので、先ほどのお話について言いたいこともあるのですが、私は船橋市出身ではないし、ここの地域の学校を卒業しておりません。たまたま結婚した相手が船橋市民でここから離れたくないということで、こちらに来ました。そばで地域の学校を見ていて、うちの子を入れるんだったら、金杉台中学校か御滝中学校かで見ると、うちの子に合ってそうだから金杉台中学校かなと思っています。学校の卒業生だから、愛着だけで語っている問題ではないということを感じておいていただきたい。当事者、通っている生徒は自分たちの学校だから、嫌とは言わないといいますが、不登校の問題とか見ますと、通っている学校が嫌だというのはあると思いますし、もしかしたらそれは金杉台中学校にもいるかもしれません。一クラス単学級が3年間続いていることで、本人たちは問題ないと思っても、いやいや問題があるのではないのかというのが石川りょう議員の考えですが、そういう考え方ももちろんあるとは思いますが、当事者の声を聞かないで、君たちにとって

はこれが幸せなことなんだよ、など思い込みによる政策の押し付けが今大問題になっていて、例えば旧優生保護法による強制手術の問題だとかそういうものを引き起こしてしまうと思うんです。本当に当事者の意見というのは絶対大事にしてほしい。

教育委員会の皆さんについてです。学校規模についてですが、前回のこちらの意見に対するそちらからの反論に対する反論から入りたいと思います。学校規模と学力の関係に関して、OECDの図表で見る教育という資料からのお話で、日本は確かに学校規模は大きいけれど、各国に比べて学力は低くないのだから学校規模が大きいことが学力に問題があるとは言えないんじゃないかということでしたが、学校規模や学級規模と学力の相関関係を比べるためには、当然それ以外の条件をそろえなければ、科学的な比較とは到底言えないので、的外れだと思うんです。規模の話と学力の相関関係をいうのであればそこまで科学的に考えていただかないと困るなあというところなんです。学校規模について少人数のほうが良いと主張したときに、カーティス委員会報告を出しまして、それに基づいてWHOが学校も100人規模の小規模が良いよねと話を出していますよといったんですけれど。実はカーティス委員会報告というのはおっしゃるとおり、1946年の戦後間もなくのイギリスで出された報告で、しかも児童養護に関する報告で、児童養護施設が大規模であるのは、結局子供たちへの愛情の欠如だとか、無責任に産んじゃうから里親のもとで育ったほうが良いよという、子供の福祉的な環境に対する、非常に先進的な提言なんです。なので、現在とは時代環境が異なるので、そのまま取り入れるのは無理があると言われていたが、児童福祉の分野を勉強している方から見れば、古典というか、常識という見解なんです。WHOはそういう福祉的な環境を児童養護とか児童福祉分野だけでなく、教育の分野でも考えるべきだよということを行ったと思うんです。教育委員会の皆さんには、発達障害などの担当である総合教育センターの方も来ていらっしゃるもので、ぜひとも福祉的な視点と教育的な観点というものは、そんなにバツサリ切れるものではないということをごを付けていただきたいと思っています。

船橋市の標準規模に関して、疑問があります。国が12～18学級というのは小・中学校の標準規模としているんですが、船橋市は多いんです。これが決められたのは、いつの時代か。この標準規模の見直しは過去に行われているのか。船橋市は人口は増えているのに、少子高齢化が進み、子供の数は極端に減っているふうには見えず、ゆるやかに減っているように見える。それに合わせてなぜ国の標準規模にあわせるという発想が出なかったのかなど。現在も船橋市内では、国の12～18学級という標準規模を超える学校はたくさんあります。自分で、市の教育委員会のデータから拾い出し数えてみたんですが、市の標準規模

校のうち国の標準規模校に収まっている学校と、それを逸脱している学校のどちらが多いか。国の標準規模から逸脱している船橋市の標準規模の学校のほうが多い。さらにいうと、過大規模校、25学級以上は過大規模校（※教育総務課補足：市の基本方針では、25～30学級は大規模校、31学級以上を過大規模校と分類しています。）とありますが、3校ありますね。行田中学校と船橋中学校と葛飾中学校。生徒全部合わせると3,189人のお子さんたちが、実にこの過大規模校の中に通っているわけです。小規模校の金杉台中学校の60人ぐらいの環境を心配されているのに、この3,000人以上の過大規模校に行っている子供たちの教育環境は心配ではないのですか。先ほど橋本議員が、抜本的な学区の見直しは数年来言っていますとありますが、私も本当にそう思います。1校減らしている場合ではなく、偏在をなんとかするということがすごく大事なんではないでしょうか。減らすのではなくて、すごく生徒が多い学校があるんです。ここを何とかしようと思わないのか。学区の見直しについて、過去に抜本的な見直しが行われたことがあるのでしょうか。正直そういうことを考えていると、市の基本方針が錦の御旗のようにこれが基準でこれに合わせていきます、となっているんですが、これを変えていただきたい。そろそろ変えどき。スクールバスを使うなどして、少ない地域に多い地域から行くことができるというふうにすることができる。

ちなみに船橋中学校は人数が多いので、希望すればほかの学校へ行くことができるんですね。教育委員会の資料にありました。船橋中学校から、御滝中学校、高根中学校、飯山満中学校に行くことができる。不思議なことに船橋中学校からほぼ同じ距離にある御滝中学校と金杉台中学校のうち金杉台中学校は選択になっていません。飯山満中学校と芝山中学校のうち芝山中学校もそうっていない。飯山満中学校より芝山中学校のほうが若干人数少ない。御滝中学校より金杉台中学校のほうが大幅に人数は少ない。余裕があるはずですが。こういったところをどういう意味で政策がなされているのか。聞きたいと思います。

最後の質問です。きめ細かい教育についてなんですが、今回は外国ルーツの子供について、今まで議題に挙がっていないので挙げさせていただきます。文科省が都道府県、政令市に対し、外国籍の子供たちの就学を徹底させるよう通知を出しました。船橋市は政令市ではないのですが。来年度ということは、4月から外国籍の就学不明児の実態調査を行うと国が言っているそうです。これに対する船橋市の取組状況はどうなんでしょうか。今後これまで把握されていなかった、外国籍で就学していない子たちが、小・中学校に入ってくる可能性がある。しかも文部科学省は、高校生相当の年齢であっても、弾力的に考えて中学校で受け入れるということもしなさいと言っているそうです。今後の小・中学校は、今まで以上にバラエティに富んだ子供を手厚く教育しなければならない

いという場所になってくると思うんです。こういうときに学校1校本当に潰していいのでしょうかということを質問しておきたいと思います。以上です。

【参加者】

資料を配らせていただきました。全部話をすると2時間超えてしまうので、喋る量を少なくするために資料を配りました。ただ、電話で問い合わせたんですけれど、市の出す資料と混同されてしまうおそれがある。問題であると言われてまして、私たちは混同する可能性があるだろうかと、よほどバカだと思われるんだなと思いました。そして、会場内でこれ配っていいですかということをお話ししましたら、1分たりとも議事進行を妨げてはならん、だから始まる前に配れと言われ、じゃあ2時間喋っていいですかと聞いたらそれもならんと言われて、ご意見たくさんいただくのが目的ですと言われながらたくさんしゃべっちゃいけないんだと思いました。

今日はお話を伺って一つよかったことは、予算のことが出てきたことです。今まで私が非常に腹立たしく思ってきたのは子供に良い教育環境を、と言いながら、やろうとしていることはその反対のことばかりなんです。なぜこれを進めるかという、今日出てきたその予算のことですよね。それが本当だったらやっとな音が出てきたということで、ちょっとホッとしました。

ところが、せつかく担当の方が来ていらっしゃるから、果たしてその計算でいいんですか。もしこれが小・中学校の予算を絞って抜本教育環境が悪くなったら、子育て世代が逃げ出しますよ。これもし統廃合が進むんだったら私ここから逃げ出すことを選択肢に入れなきゃならないなと思っていますよ。妻が金杉台小学校を卒業していますし、実際子供も金杉台小学校に通わせて非常にいい環境で、本当に満足しております。金杉台中学校も、いろんな人に話を聞いても悪い話が1個も出てこないんです。ぜひとも子供が卒業するまでは、金杉台にいたいんです。

ところがもし統廃合されるんでしたらここから逃げ出します。これは自治会の方とか、町会の方もいらっしゃる。逃げ出すのは子育て世代です。下手したら何十世帯もまとまって逃げ出します。そしたらこの地区どうなるか。若い世代に掛けている金をむしり取って、高齢者に回すというのが国全体の方針ですから船橋市もそれに乗っているのしょうけれど、多分何にも考えていないでしょうね。私としては別名をつけるなら先細り促進政策だと思います。子育て世代が逃げ出したならば、ここの平均年齢1年で一つ上がるんじゃなくて1年で三つも四つも上がっちゃいます。で、町会の方とか、自治会の方に考えていただきたいんですけれど、ここから子育て世代が逃げ出したらこの地域どうなります。とても不思議なことにあまり危機感を持っていらっしゃる方が少ない

んで、不思議に思っています。市のほうではここから子育て世代が逃げ出した場合にどうなっていくか試算していないですよ。私の勤務先は病院ですので、その気になれば割と自由に勤務先選べます。逃げ出すんだったら船橋市じゃなくてよそも選択肢にできます。そうしたら船橋市は選ばないと思います。そうすると税収ますます減りますよね。高齢化もっと進みます。その試算はしていますか。

特にこの金杉台地区で考えたら、今こんなに評判良いのに、これつぶしたらどれだけの人が逃げ出すか。この金杉台小学校、金杉台中学校に通わせたいから引っ越してきたという人もいました。そんな人はいなくなります。えらいことになると思うんです。教育委員会は、私たちの知ったことではないと言いますけれど、えらいことになると。先細り促進です。

今日いただいた資料で面白かったのは、例えば、金杉台中学校に関する地域説明会の12ページ、仮に急激な学級数の増減があると安定的な教育環境の提供に支障をきたすおそれあり。「支障をきたすおそれあり。」こればかりなんです。支障をきたすおそれがあると言いながら実際に支障をきたすのか。仮に選択地域を拡大して支障が起こりそうな場合に、支障を起こさないためにどうしたらよいか。これを考えるのも教育委員会の仕事のうちなんじゃないんですか。それを考えずして支障をきたすおそれがあるからダメなんだ。この方向しか考えていない気がします。これが結論ありきということだと思っただけなんです。結論ありきではありませんと繰り返しおっしゃるんですけど、感覚鈍っていてこれが結論ありきだっただけで感じないようになってはいませんか。そのことが非常に不思議に思います。

子供に意見を聞くかどうか、子供に意見を聞かないのは児童憲章違反だと思います。子供の意見を聞くというのは、児童憲章の一項だと思います。子供は人として尊重されるでしたかね、意見さえ聞かれないというのは児童憲章に違反しませんか。教育委員会が児童憲章に違反してはいけません。日本は批准しているんですから、子供の願いを聞き取って、聞き届けるのは別の話です。意見さえ聞かれないというのは児童憲章違反だと思います。子供を傷付けるおそれがある。プロフェッショナルなんですから傷つかないような方法で考えてやってください。期待してますよ。子供たちに心配をかける、心配をかけるのは私はいいいと思います。自分たちの将来のことを考えて地域のことを考える。これもものすごい教育チャンスです。それをしないということは教育のチャンスを奪うことになります。あとはその持って行き方次第です。それをどうするか、それは教育委員会の仕事のうちだと私は思います。そういうところで仕事をしてください。

それから今日配った資料です。前回いただいた教育委員会の考え方、非常に

ひどい内容です。まず根拠がほとんど示してありません。どこがどうダメかというやつは、お渡しした資料の別紙1にまとめてあります。それぞれの項目についてです。それから必要なところを抜き出しました。それが別紙の2です。おかしいと思ったとこ、ここ考えが変じゃないの、特にですね、市の基本方針の中で、標準規模の学校によって期待される効果とあります。それ全くおかしいと思います。それは別紙2の前半に書いてあります。後半もほかにおかしいと思ったところをまとめています。それについて後日文章できちっと出してください。あまりにひどいんで呆れています。それから3枚つづりのやつですけど、まずは前回コールマンレポート、コールマン報告についてですね、なぜそれを参考にしないのかというふうなことに対して、時代に合わないから、もう古いからこれは役に立たないんだと言ってあっさり棄却されて仰天しました。その後調べましたけれど、コールマンレポートは1966年に策定されています。ところでですね、標準規模が、適正規模であると規定したのは1958年です。それより8年前です。こっちのほうが古いんです。こっちのほうがよっぽど時代に合わない。これについては厚生労働省は、1973年にきちんとした根拠はないんだと、当時の厚生省ですかね。局長が国会で証言しています。研究とか学問的なものに基づくものではない。

それほどあやふやなものだと国自体が認めます。さらにはその後の中教審で委員の発言ですけど、これは子供が増える時代に作成された標準規模である。これはもう見直す時期なんじゃないのという意見があります。もうこれ時代に合わないよって、中教審でも意見が出てたんです。これ今日じゃなくてもいいんですけど、必ず答えてほしいんですが、コールマンレポートは古いから時代に合わないと言っているにもかかわらず、標準規模は時代に合わないのが明らかなのに、これを守ろうとしています。それはなぜなんですか。コールマンレポートを棄却して標準規模は棄却しないその理由をちゃんと根拠を示して答えてください、とても重要なことだと思います。それからですね、兵庫教育大学の須田先生のお書きになったものを見つけました。学校規模とそれに関する研究をまとめたものです。これは兵庫教育大学のホームページで、ファイルが閲覧できます。今答えられると思うんですけど、この中でそれを今まで読んだ方はいらっしゃいますかね、いらっしゃらないですかね。これに後半に参考文献が挙げられています。大部分が英文です。これ読まれた方いらっしゃいます、いらっしゃらないですね。あと和文のものはですね、国立なんか研究所でやっている和文のものが1部ありますけれど、ほとんどがその引用なんですけれどそれに目を通していらっしゃる方いらっしゃいます。

つまり何を言いたいかというと、そういった学問的研究が世の中では行われています。国内では少ないです、海外が多いです。でもそういったものを教育

委員会はちゃんと踏まえているんですか。言っていることで説得力がないのは、基本的に文部科学省で出している手引だけがもとなっているように思うんです。ところがその手引自体が問題だらけです。それはここにも一応記載してあります。

そこで一つ提案したいんですけど、これこのあと何百回説明されても多分納得できないと思います。なぜかというとは、その文部科学省手引自体がおかしいと思っています。ところが教育委員会はそれだけがどうも根拠のようで、共通の基盤がないんです。多分何百回説明されても納得することはできないと思います。そこで提案なんですけれど、実際に学校規模と、教育についてまとめられた研究があります。それ須田先生が多分研究されててまとめたものを出してらっしゃるんだと思うんですけど、須田先生に講演していただいたらどうだろうか。説明していただければ、共通の認識、共通の基盤になるものができるんじゃないかと思います。教育委員会と例えば保護者の有志で共催というのが一番いい形だと思いますけれど、教育委員会が乗らないようでしたら、私個人でお呼びしたいと思います。大学の先生ですからそんなにすごいお金をかけずとも呼べるんじゃないかなと思っています。それを是非検討してください。

それで、最後にお願ひがあります。賢い教育委員会であってください。僕らは住むとこ決めたら、教育委員会を選べないんですよ。ダメな議員がいたら選挙のときに落とすとか、良い人がいたら議員に取り立てようとか。選挙とかなんですよ、教育委員会。住むとこ決めたら僕ら頼れる教育委員会が船橋市教育委員会しかないんですよ。僕らの未来がかかっています。あなた方しか頼れる人がいないんですよ。賢い教育委員会であってください。それが僕の願ひです。よろしく願ひします。

【参加者】

今スライドが出ている12枚目のやつですね、仮に急激な学級数の増減があると安定的な教育環境の提供、施設に支障をきたすおそれがありって書いてあるんですけど、これ多分大丈夫だと思います。金杉台中学校、教室数十分あります。というのが、私が在学していたときは1学年4クラスないし5クラスあって、普通に教室も、校庭、体育館も足りていました。だからその範囲で増える分には大丈夫だと思います。あと教職員数は、ちゃんとそれだけの人を配置すればいいだけのことなので大丈夫だと思います。だからこれは当たらないと思います。その心配は無用だと思います。

第2点目はトイレ問題があります。御滝中学校に統合というふうになるとトイレが使えなく、自由に必要なときに使えなくなる問題があります。御滝中学

校に行くということで、いろんなついでで保護者から聞いたりしたんですけど、御滝中学校は校舎が学年別ごとになっていて、特別教室は特別校舎で、一つの建物になっているそうです。その特別校舎には、建物自体にトイレがないそうです。

例えば音楽室は、校舎の4階にあるそうです。4階で授業中におなかが痛くなっちゃったり、急に女の子が生理になっちゃったりとかで、トイレに行かなくちゃいけなくなっちゃったというときに、その建物にないんです。どうするかっていうと具合が悪いのに階段を下りて1階まで行って、自分の学校の校舎の建物に走ってそのトイレを使わなきゃいけないんだそうです。一番近いトイレは使っちゃいけなくて、学年の建物のトイレを使うという決まりだか運用だかになっているんだそうです。それは30年も前から同じ状況で変わってないそうです。何でそんな人権問題と思うようなトイレ問題が解決されないのかわからないんですけど、金杉台中学校が1クラスで悪いっていうふうに言われたら今度は御滝中学校に行かなくちゃいけなくなったら、トイレを自由に使えない学校にたたきこまれるということになります。人権問題だと思います。それが30年以上放置されているというのも問題だと思います。

ということは、トイレを自由に使えないということを理由に学区変更を申請できるんでしょうか。トイレが御滝中学校だと行けなくて、うちの子授業中トイレによく行くんですけど、粗々をして学校に行けなくなっちゃ困るので、その心配がないトイレの数のある学校を自由に選ばせてくださいというふうに申請をしたら、教育委員会は認めてくださるんでしょうか、その点を今じゃなくて結構ですので、文書できちんとご回答ください。以上です。

【司会】

大変長い時間になってしましまして、こちらの進行もうまいかなくて予定の時間を大幅に過ぎてしまい申し訳ありませんでした。

【参加者】

すみません、さっきの今日教育委員会の若い職員…。

【司会】

そのことも含めてお話させていただきます。

【管理部長】

たくさんのご意見をいただき誠にありがとうございました。本来11時半ということでご案内していましたが1時間近く過ぎてしまいましたので、一

且トイレ休憩にさせていただきます。回答は文書で必ずお出しします。皆さんの予定もあると思いますので、お帰りいただいても構わないと思っています。トイレ休憩ののち、可能であれば12時半くらいから、回答したいと思いますが、学校を最初12時までということでお借りしている事情がありますので校長先生に確認して、時間の許す限りお返事したいと思います。進行が遅くなってしまって申し訳ありません。

【司会】

それでは、5分休憩にさせていただきます。もし帰られる方は、ご質問があれば、ご意見記入用紙に書いていただければと思います。

(休憩)

【司会】

校長先生に確認したところ、学校の都合で12時半には終わりにしなければならぬということなので、管理部長からご説明させていただきます。

【管理部長】

すみません、せつかく残っていただいたんですが、時間がなくて、あまりにもたくさん質問をいただいて、ちょっと答えきれないんですね。

【参加者】

今はっきり文書でお答えするとおっしゃっていたんで、私の質問はちゃんと答えていただきたい。いつも偉い方ばかりのコメントなので、生の声を願います。

【管理部長】

若い職員ですね。意思決定は教育委員会として、やはり管理職が中心になって進めていますので若い職員に聞くというのは、少し私としては難しいと思います。

【参加者】

それはあなたの裁量であって。

【管理部長】

はい。私の裁量でこれは決めていいものだと思います。

【参加者】

そうなんですか。納得しかねます。

【管理部長】

はい。若い職員は部分部分の仕事をしています。市役所というところはそういうところで、だんだん上に上がるにしたがって、それを決めるということを行います。一つ一つのことを起案者といって案を出す職員がいて、係長を通して課長補佐、課長と上に上がるにしたがって、それを決裁、意思決定できる仕組みで市役所は動いています。

【参加者】

私が心配しているのは、若い方たちに意見を持たせず、ちょっと言葉悪いですけれど、上の管理者の方たちの考えに純粹培養されているんじゃないかと思うんです。

【管理部長】

そういうことはありません。考え等々全部、若い職員が原案を作っております。表現がわかりにくいところを直したり、ちょっと意図と外れているんじゃないかと修正していますが、若い職員の意見を聞きながら進めています。

【参加者】

それを文章に必ず明記してください。お願いします。

【管理部長】

はい、わかりました。後は、文書でご回答ということでよろしいでしょうか。その他にどうしても今ここで聞きたいことがあれば。時間が本当に数分しか残っていないんですけれども。

【参加者】

私から地域包括ケアシステムの話をしていただきました。財産管理課の方がいらっしゃっているので、財産管理課からの今回の資料というのは、統廃合された場合の財政の資料だったと思います。今度は是非存続する場合、この建物をどういうふうに切り分けるか、例えば中学校としての部分をどこまで残して、特別棟いろいろと継ぎはぎだらけでありますけれども、そこをどういうふうにお財布を分けていくか、行政のお財布から離すのか、ほかの民間に委ねる

のか、そういった場合の資料というのを今までどおりの細かな資料と同じくらい細かく提示していただきたいと思います。

【財産管理課長】

切り分けて、ここは民間でここは例えば違う公共施設でとか、そういうのはまだ具体的に皆様方のご意見とかもまだ伺っていない段階ですので、全く白紙の中で役所がここは何とはなかなかちょっと我々の案も持ちえないので、もうちょっと話ができ上がって、地域の皆様がこういうのがほしいという意見があったのちに初めてできるのかなと考えているところです。

【参加者】

学校とほかの施設の複合施設という事例が載ってなかったのも、私、複合施設っていうのを聞いたときに真っ先にそれをイメージしたんですね。一部は学校で一部はほかの施設。ぜひとも次回以降でいいので、そういう事例も載せていただきたいし、それについても真剣に検討していただきたいと思います。

【財産管理課長】

複合施設の実例、確かにございますので、それはご用意することはできます。その件については、検討、考えるということは教育委員会とも合わせながら考えるときには絶対考えていきたいと思います。

【管理部長】

ではお時間が参りました。

【参加者】

次回の開催はいつぐらいになりますか。

【管理部長】

今回は年度あけて、メンバーが変わったりする可能性がありますので即答はできません。

【参加者】

引き継ぎはちゃんとお願ひします。

【管理部長】

わかりました。5月1日付の数字で生徒数を確定させて、これが統計的に使わ

れる数字なんですけれども、それをもとに生徒数の推計に入ります。それがあ
る程度見えてきた段階で開催することになるかなというふうに思っております。
ただこれは確定ではありません。来年度どういう体制で私たちが準備するかも
決まっています。

【参加者】

すみません、リセットは困ります。

【管理部長】

リセットするつもりは全くありません。

【参加者】

約束してください。お願いします。

【管理部長】

はい、わかりました。

【参加者】

5月中はありますか。小・中合同運動会とかがあります。

【管理部長】

小・中合同運動会の日にするということは絶対ありません。

【参加者】

5月中はなし。可能性がありか、なしかだけでも。

【管理部長】

私ども、まだ学校の年間のスケジュールをもらっていませんので、それをも
らってから考えることとなります。

【参加者】

じゃあありね。

【管理部長】

小・中学校の運動会の日にするということは100%ありませんけれども、5月
中にやるかやらないかは、まだ決まっていないということです。あと、体育館

ではなくなぜこの会場にしたかというのは学校側の都合ですので、人数が少ないからここでいいだろうという考えは全くございませんでした。逆にこのほうが少し暖かいかなという気はしたので、収まる人数であればこのほうが都合がいいかなと考えたところは正直ございますけれども、人数が少ないからここでいいだろうという考えは全くございませんでした。

【司会】

長時間にわたりまして、予定より1時間オーバーということで、ご迷惑かけましたけれども、本日はどうもありがとうございました。お忘れ物のないよう、お帰りください。